

担当役員に
聞く



マグエバー社長

澤渡 紀子氏

中国ワンソースにリスク

—取り扱う磁石の原料は中国が最大のシェアを持っています。

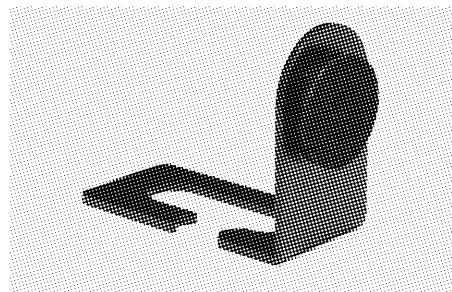
「中国にマテリアルがあるので、現実に磁石の調達と同国からのワンソースになるのは仕方がない。配合や製造方法なども中国メーカーそれぞれが独自のノウハウを持っており、当社はそうした磁石を用いた製品を供給している。当社の製品でもマグネットストッパーは年間20万個生産するが、供給責任を果たす上でも品質管理には力を入れている」

「同国の製造業の技術・品質は向上しているが、実際には技術者が変わると品質が急に悪くなることなどもある。自分も頻繁に現地に行き、技術者も足を運んでチェックしている。最近の訪中では10社くらいのメーカーでどのような材料でどういう工程で作っているかなどを視察した。当社は不良対策などに関する動きは速いし、信頼につながっていると思う」

—需要予測などの仕組みづくりを進めていますね。

「中国から輸入する完成品だけでなく、部品として納めている製品も多いため、供給責任を強く意識している。当社はかなりの在庫を持つようにしているので、コロナ禍でのサプライチェーン（供給網）の混乱を乗り切れた

需要予測徹底、生産を分散



年間20万個を供給するドア用のストッパー

が、現在はさらに進めてデータ管理や需要予測、いろいろな情報収集を徹底している。完璧ではないが、データを見て、単価やコストメリットも見て管理していく」

—生産面でのリスク分散のための取り組みは。

「製品の生産拠点が中国だけのワンソースではリスクがあったので、マレーシアの協力会社を確保して製品を生産している。さらに新製品の開発・生産開始に伴って秋田県にも協力工場を確保し、着磁器を置いて操業している」

「現在は中国・日本・マレーシアの3拠点体制にして、リスクを抑えるようにしている。具体的な話はないが、他の国にも関心はある。従来は外部委託だったが、2024年に川崎市に自社の物流拠点を開いた。秋田の生産拠点にも倉庫を確保し、安定供給という意味では体制が整ってきている」

(中野徹二)